



「情報リテラシー授業」の オンライン化

國學院大學

経済学部・共通教育センター兼担

高橋尚子

情報処理学会 教育担当理事

もっと日本を。もっと世界へ。



高橋 尚子

情報教育、コンピューター利活用 テクニカルコミュニケーション

キーワード⇒ パソコン、ネット、トリセツ、資格検定
経済学部⇒ 教授(理学士)

E-mail⇒ n.takahashi@kokugakuin.ac.jp

研究・実践

- コンピューター全般にわたる利活用、利活用に必要な知識・スキルの追究と資格検定等による実践
- トリセツや、ウェブ、メールなど「情報伝達型」の表現や説明技術の実践、それらに必要な知識やスキルの策定

アピールポイント

コンピュータを使い続けて40年、パソコン・インターネットの歴史とともに生きてきました。元祖、理系女のパソコンオタクです。が、日本語にも詳しいです。

著書紹介



自己紹介

1980年 東京女子大学 文理学部数理学科 卒業

大学在学中に、日本初の女子大マイコンクラブMOVEを設立

1980年 女性S E第一期生として、富士通（株）に入社

1984年 （株）アスキーでビジネスパソコンスクールを開設・運営

1987年 （株）片貝システム研究所でO Aインストラクタ、ライター

1990年 上場企業の子会社リライズ（株）を設立、マニュアル制作

1992年 ナウハウス（株）＜ナウハウス有限会社＞として独立

1995年 國學院大學経済学部で情報系科目の非常勤講師

1999年 早稲田大学教育学部で非常勤講師

2007年 國學院大學経済学部 教授（情報教育担当）

2009年 一財）テクニカルコミュニケーター協会 専務理事

2015年 情報処理学会 情報処理教育委員会委員、他

情報リテラシー授業の位置づけ (H29年度入学から)

科目区分		文学部					法学部	経済学部	神道文化学部
		日本文学科	中国文学科	外国語文化学科	史学科	哲学科			
國學院科目群	神道と文化	2	2	2	2	2	2	2	※1
	國學院の学び								
	日本文化を知る								
	Japan Studies								
汎用的スキル科目群	日本語								
	英語	12	2	4	12	12	8	16	12
	数的推論								
	情報処理	2	2	2	2	2	2	2	2

情報リテラシー
「コンピュータと情報」

情報リテラシー「コンピュータと情報」の概要

- 情報処理「コンピュータと情報」（必修・選択必修）2単位
⇒ いわゆる、ICTリテラシーでPCスキルの実習中心
 - 経済学部（500名）・・・必修、1年前期 <進級要件>
 - その他の学部・・・「数的推論（SPI）」とのどちらかを選択必修
→ 80～90%がコンピュータ授業を履修
 - 開講コマ数と受講生数

今年度・・・前期：22コマ（受講生：1278名）
各クラス60名定員で、ほぼ満員、例年並み

オンライン授業へ

（後期17コマ、計39コマ予定）

昨年度前期：20コマ（受講生：1141名）

（サマセ・後期19コマ：1095名）

履修対象学生数

– 渋谷キャンパス
…4学部10学科

– たまプラーザキャンパス
…1学部3学科
(人間開発学部)

所属	男	女	計
文学部	1,417	1,783	3,200
経済学部 ()1年生	1,570	713	2,283 (493)
法学部	1,386	739	2,125
神道文化学部	539	275	814
人間開発学部	625	783	1,408
学部計	5,537	4,293	9,830

2020年度在校生数(人)

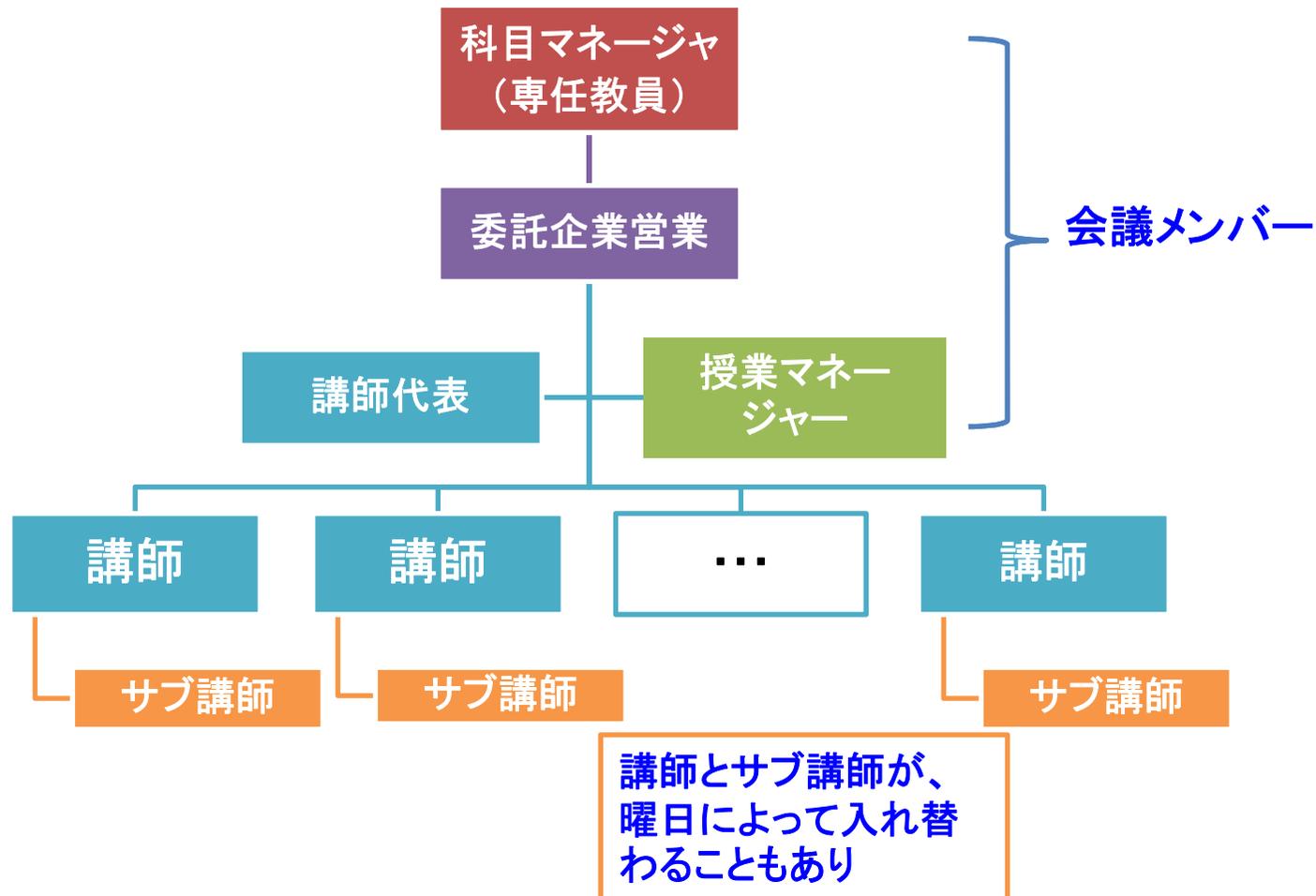
(今は使えない)コンピュータ教室の環境

- コンピュータ教室の設備
 - 渋谷・・・60台×4教室、30台×1教室
 - たまプラーザ・・・60台×2教室、30台×1教室<自習用>
- コンピュータ教室の環境
 - Windows10 + Office365、SPSSなどは一部教室に導入
- LMS
 - K-smapyII (ケースマッピングツール：既存製品のカスタマイズ)、2018年前期まではオリジナル
- 自習用のPC<渋谷>
 - 原則1教室を割り当て (開講コマが多いとなし)
 - 自習室1室 (30台)、オープンスペース (30台)

「コンピュータと情報」授業体制

- 外部委託講師での運用（2017年度から）
 - 外部委託企業からの派遣講師・・・7名
 - **メイン講師とサブ講師**、2名体制で授業担当
- 外部委託講師を導入した理由
 - **授業内容や評価基準を統一**すること、
 - **複数開講での講師の確保**を優先すること
(1学年全員が履修すると想定し、渋谷では、**60人教室×40コマ**程度の開講が必要)
- 単位修得科目として成立するために
 - すべてのクラスの講師名に、**専任と外部講師のペア**で表記すること、
 - **カリキュラム・シラバスの決定は、専任が行うこと**
 - **成績の確定は、専任が行うこと**

外部委託講師授業の講師体制



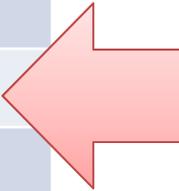
オンライン授業へ向けた準備

- 大学の動向
 - 3月に遠隔（オンライン）授業が実施可能かを確認
 - 4月上旬に、全面遠隔授業が決定
 - 4月中旬に、全教員（専任・兼任・外部講師にZoom ID配布）
- オンライン授業の運営について、**会議メンバーでオンラインで打合せ**
- **1回目（4月中旬）**・・・Zoom利用方法の説明、問題点の検討
 - 各講師から、運営上の問題点、質問・疑問・不安、要望を洗い出してもらい、解決方法を検討。要望は大学へ連絡
- **2回目（4月末）**・・・具体的な授業運営について検討（講師フィードバック後の確認、大学からの決定事項報告）
 - シラバスの見直し（15回⇒12回、自習回を決定）
 - 課題の出し方やテスト方法を検討（課題回数に変更なし、授業時テストは実施なし、時間限定の課題とする）
 - 評価基準の見直し（出席の扱い方を変更、それ以外に変更なし）

講師間での打合せ、Zoom講習など

シラバス

12回に変更した結果		従来の15回	
1回目	環境確認 基本操作 (Zoomも) メール	1回目	教室利用、基本操作 インターネット メール
2回目	インターネット 日本語入力	2回目	日本語入力 タイピングテスト
3回目	表現練習 PowerPoint	3回目	表現練習 PowerPoint
4回～7回	文書処理 (Word)	4回～7回	文書処理 (Word)
8回～12回	データ処理 (Excel)	8回～12回	データ処理 (Excel)
13回	自習	13回	Excel応用・アプリ連携
14回	自習	14回	Word応用・アプリ連携
15回	課題	15回	授業時試験



オンライン授業の実際

- **第1回授業**（2回目も若干あり）
 - 可能な限り、**全講師がオブザーバーとして聴講**、学生からのチャット質問等に対応
- 第2回授業以降
 - メイン講師とサブ講師、2名体制
 - **サブ講師**・・・待機室の許可、参加者名のチェック、チャット質問への対応、チャットにテキストページなどを発信
 - 学生には、できるだけビデオオンにしてもらい、学生の表情からサブ講師が理解度を確認
 - 操作説明と実演後、実習と休憩を合わせて10分程度のインターバルを設ける。**実習ができたかどうかは、投票機能で確認**する。
 - 毎回の授業後に、実習ファイルの提出

外部委託講師授業の授業運営

- 月1回程度ミーティング
 - ⇒ 営業、授業マネージャー、講師代表、
 - 授業の進捗・課題の提出状況など確認
 - 課題・期末問題と、採点基準などの確認
 - 欠席・失格者、学生からの問い合わせ状況
 - コンピュータ教室、ソフトなど環境の確認
 - 成績評価の検証と承認 ← 実会議予定
- メールで随時対応
 - 学生への個別対応メールはBCCでもらう

オンライン会議実施

成績評価について

- 対面授業時と、評価基準、割合等は変更なし
- 出席の扱い <変更>
 - 授業はすべて録画し、オンラインで受講できなかった学生も、見逃し配信を見て、実習ファイルを提出した場合は、出席扱いとする
遅刻は見ない
- 提出課題の評価
 - 課題ファイルと、課題指示をPDFで配布
- 知識テスト
 - LMSでの授業内、リアルタイム受験（出席者のみになる）
- 授業時試験
 - 問題用紙を、印刷不可、パスワード付のPDFで配信する予定
 - 通常課題より、提出期間を短くする

オンライン授業での問題点①

- リテラシー教育なのに、Zoomを聞きながら、PCを操作させる
 - **環境問題**
 - WindowsPCを想定した授業のため、MacPCの質問対応、サポートができない。
 - キー操作や、Officeメニューの違いに苦労する
 - 自分のPC環境が何かわからない
 - ← スマホで写真を撮って送ってもらう
 - WindowsPCでも、古いバージョンの学生がいる
 - PCが用意できない学生 ← 大学から貸出
 - ファイルの保存場所や、印刷設定
- ※経済学部では、必修のため、入学前にWindowsPCを準備するようお手紙を送付

オンライン授業での問題点

- 課題ファイルの評価が難しい内容
 - 環境の違いによるレイアウトのズレなどの許容範囲
 - 自力で行ったか
 - コピーファイルの提出はないと思ったが・・・
- 特別配慮が必要な学生への対応がわからない
 - 長時間集中できない学生 ⇒見逃し配信で見る
 - 座位が保てない学生 ⇒好きな体制で受講
- 講師PCが統一できない
 - デスクトップなどの状況が見られてしまう

共通テキスト

- 『アカデミックスキルとしての**ICT活用**』

木野富士男著（講師代表）

高橋尚子監修

（技術評論社）2020.3発行

- 昨年度までのテキストを改訂し、授業で使いやすく、補助プリントなどを盛り込んだもの
- 節単位で授業が進められる
- 演習課題が中心



現体制のメリット、デメリット、今後の方針

- 外部委託のメリット
 - PCIリテラシー **授業の内容・評価基準は統一**
 - 講師の選定等の負担がない
 - 講師の交代を可能としているので **休講がない**
 - 大学都合や悪天候による休講の補講で **講師の代替がきく**
- 課題
 - 委託先が1企業のためリスク分散が必要
 - 科目マネージャーの依存度が高い
- 今後の方針
 - 2020年度に共通教育が4年目を迎えるので、全体の見直しを始めたところだが・・・

実は・・・

- 私は、早稲田大学 教育学部で「コンピュータ入門」として、同じ内容の授業を非常勤で実施
- 履修生・・・50名（1年生45名、4年生5名）
- サブ講師なし
- Moodleと、オンラインツールCollaborateでライブ授業
 - 本年から、LMSが変更
- 自分の経験や手法を共有しながら実践中